トルクメン通信　第６号

2016 年 11 月 25 日作成

こんにちは。お久しぶりです。前回の発行から半年以上空いてしまいました。前回のトルクメン通信では、「もしかしたら日本に帰国することになるかもしれない」のようなことを書きましたが、それから状況が変わり、2016 年 9 月から 2 年間、国際交流基金の指導助手としてトルクメニスタンの日本語教育に関わることとなりました（ちなみに、アザディ大学の契約は 2016 年 8 月末で満了しました）。ということで、また細々とこのトルクメン通信を通じてこちらの状況をお伝えできればと思います。これからもよろしくお願いします！

この半年間、何をしていたかというと 6 月～7 月末までは期末試験、卒業試験、1 年生と 5 年生の教科書／ワークブックの作成・編集・校正、教員研修、その他諸々…。8 月 1 日に日本へ一時帰国したのですが、7 月 30 日まで仕事がありました。トルクメニスタン、鬼ですね（笑）。そして 9 月からは国際交流基金の業務立ち上げを主に行っていました（トルクメニスタンは国際交流基金専門家新規派遣の国です）。今年の 9 月から 12 の中等教育機関、そして 6 の高等教育機関で新たに日本語教育が始まり、これから日本語教育熱が高まっていく（であろう）トルクメニスタンで、このような立場からこの国の日本語教育に関わることができ、とてもやりがいを感じています。これからも頑張りたいと思います。

今回のトルクメン通信では、現 2 年生（僕がアザディで教えていた当時の 1 年生）の様子と 6 月と 7 月に行った中等教育向けの教員研修の様子についてお伝えします。ただ、これまでの写真を保存していた携帯電話を紛失してしまったので、教員研修の写真はありません。すみません…。

● 現 2 年生（旧 1 年生）の様子

2 年生の様子を端的に表現すると「元気がいい！」。学年が上がるにつれ落ち着いてくる（覇気がだんだんなくなってくる？）のですが、2 年生はまだ若く、エネルギーが有り余っているのか、とてもパワフルです。そして、日本／日本語に対する好奇心がとても強く、どんなことでも吸収しようとするパワーを感じます。ですので、こちらも授業をしていてとても楽しかったです。

2 年生は、現地教員の Z 先生が日本留学から帰ってこられる 10 月までの約一ヵ月間と、後期の授業を受け持ちました。前期では、ひらがな・カタカナと簡単なあいさつやフレーズを教えたのですが、「日本」という国や「日本語」という言語に対する興味が強く、とても一生懸命勉強していたことを覚えています。そして一番印象的だったのが、何かを伝えようとする力が強いことです。当時は日本語を勉強して間もなかったため、英語でのやり取りや学習した日本語のフレーズを使ったやり取りが多かったのですが、それでも言いたいことがあったときに、クラスメイトの力を借りてでも伝えようとする姿勢が見られました。その姿勢は、もちろん日本語を学んでいく上で、そしてこれから様々な「ことば」を使って生きていく上でとても重要です。なので、その姿勢を大事にしながら授業を進めていきました。

後期の授業では、教科書の内容を取り上げることはもちろん、2 年生が持っている「伝えようとする力」を活かした授業をしたいと思い、僕の大学院時代の知り合いに協力してもらい、その知り合いと手紙でやり取りをするという活動をしました。まず、2 年生が日本語で手紙を書き、それを僕がパソコンに打ち直してその知り合いに送り、知り合いからの手紙を読んでそれに返事を書く、という感じで進めました。意外と 2 年生に書きたいことが多く、書くのに時間が必要だったので、やり取りは 2 回しかできなかったのですが、その少ないやり取りの中でも得られたもの大きかったと感じています。特に、私以外の人と日本語でやり取りができたことは大きかったと思います。トルクメニスタンでは学生と外国人の接触が厳しく制限されており、私以外と日本語のやり取りをする機会はほぼありません。普段話し慣れている私ではない人と、「書く」という手段でやり取りをするのは少し大変だったかもしれませんが、クラスメイトと質問しあったり、私に書きたいことを根気強く伝えようとしたりしながら、「どんなことをどんなことばを伝えたらいいのだろうか」と考える経験は、もちろん日本語習得を促すだけでなく、日本や日本語に対する興味を深めたり、「ことば」を使って人と関わり合おうとする力を高めたりすることにつながるはずです。返事をもらった時に見せるうれしそうな表情や、返事を真剣に読み内容を理解しようとする姿を見ると、2 年生が日本語という「ことば」や、やり取りをしている相手としっかり向き合ってい

るのだなと思い、この活動が意味があったんだなと感じました。現在は私の所属が変わったことなどもあり、やりとりを中断していますが、機会があれば今後も続けていきたいです。

（写真 1 枚目…日本文化の日に「おむずびころりん」の劇をすることになったので、みんなでおにぎりを作りました。／写真 2 枚目…日本文化の日に「おむずびころりん」を発表している写真です。／写真 3 枚目…一生懸命手紙を書いています。／写真 4 枚目…クラスメイトが入院していたとき、お見舞いにみんなで巻き寿司を作って持っていきました。写真は 2 年生が作った巻き寿司です。）

● 中等教育向け教員研修

前述の通り、2016 年 9 月から 12 校の中等教育機関で日本語教育が開始されました。それに向けてカリキュラムを作ったり教科書を書いたりしていたのですが、それと並行して、日本語を教える予定の先生方に対する研修も行ってきました。もちろん私もその研修を担当することになりました。「俺、日本語教師としての経験が浅いんだけど・・・。というか俺が研修してもらいたいんだけど・・・」などと思うところはたくさんあったのですが（笑）、他にやる人がいなかったのでそんなことを言っている場合ではありません。しかも、トルクメニスタンというお国柄、教員研修の話が突然「降ってくる」ので、毎回追われるようにして準備をしていました。

教員研修は全部で 4 回（1 月、3 月、6 月、7 月）行いました。1 月は自己紹介をした後、世界や日本、トルクメニスタンの日本語教育の状況について学んだり自身の日本語学習を振り返ったりしながら、「日本語の先生になること」について考えました。3 月は、直前の通達でかつ大学の授業期間中で時間がなかったので（という言い訳に逃げ笑）、日本語の復習と初稿の段階の教科書を使って先生方にミニ授業をしてもらうという、かなりこちら側の負担を軽くした研修をしました笑。6 月・7 月は実際に教壇に立つということを念頭に置き、「教案・教具の作成⇒模擬授業⇒テスト／練習問題の作成⇒評価」という授業全体の流れを体験しながら、「日本語を教えること」とはどういうことかを考える研修を行いました。研修を受けられた先生方は学校で英語の授業をされていたということもあり、様々な意見やアイディアが飛び交う中で研修が行われました。課題として挙げられるのが、一つの例として僕の教案や授業を見せたところ、先生方の教案や模擬授業がほぼ僕の教案や授業の通りになってしまい、先生方の色を出してもらうことができなかった点でした。ですが、先生方の工夫が所々で見られましたし、何よりも「日本語を教える自信がない」とおっしゃっていた先生方が、研修終盤に「自信が少し出てきました。頑張ろうと思います。」と前向きになってくださった点は研修の大きな成果でした。

また、研修の中で先生方の「日本語教育」に対する思いや悩みを聞くことができたのも私にとっては大きな収穫でした。教員研修に参加された先生は、すべてアザディ大学日本語学科の卒業生です。「卒業から今まで日本語と関係のない仕事に就いていたので、大学時代の専門をこのような形で生かすことができてうれしい」「日本語の先生になることを楽しみにしている」とおっしゃる先生や「楽しくて生徒のためになる授業をするためにはどうしたらいいのか」と熱心に考えていらっしゃる先生がたくさんおり、逆に僕が刺激をもらいました。一方で、「生徒が私のいうことを全く聞いてくれない、どうしたらいいのか」「日本語ができなかったらどうしよう」という悩みや心配の声も挙がりました。この研修の中でこれらの悩みや心配を解消することはできなかったかもしれませんし、それらの悩みや心配に応えられる力が僕になかったのは申し訳ないなと思いました。僕自身の課題も多く見つかり、今後に向けてまたいろいろと考えていかなければならないなと感じました。

今回は、現 2 年生の様子と中等教育向け教員研修の様子をお伝えしました。トルクメニスタンの日本語教育の状況も、私自身の状況もガラリと変わり、正直今後どうなっていくのか見えない部分もあるのですが（笑）、新たな気持ちで、一歩ずつ進んでいくことができればと思います。これからはアザディ大学の学生の他に、他大学の学生の様子や学校の生徒の様子も合わせてお伝えできればと思います。今後も引き続きご覧いただければうれしいです！

国際交流基金日本語指導助手（トルクメニスタン） 上原龍彦
（ご質問・ご感想などは azadyuehara★gmail.com へ。 ★を@に変えてください）